



●四国アセチレン工業株式会社

所在地 丸亀市川西町南1番地（丸亀事業所）

業種 化学工業

事業概要 ガス・ウエルディング事業、
ヘルスケア事業、応用ガス事業、
エネルギー事業

従業員数 17人（男性14人、女性3人）

育児休業取得期間 R8年3月～4月に28日間取得

【今回のインタビューは、四国アセチレン工業株式会社 丸亀事業所 取締役総務部長の矢野さんと製造所長の樋笠さん、育児休業取得者の近藤さんにお願ひしました】

○育児休業を取得したきっかけについて

【近藤さん】

妻と子どものことを話し合う中で、「会社の理解を得られて休めるのであれば、一人で育児・家事をするのは大変であるし、あっという間に過ぎてしまう貴重な新生児の時期を一緒に過ごしてほしい」という妻の願いを聞きました。私自身も子どもが好きなので、「育休を取得できるならぜひ取得したい」という思いがあったので、育児休業の取得を決めました。取得にあたり、3月が出産予定日でしたが、年明けにすぐ会社に相談したところ、「おめでとう！ぜひ取得しな！」と前向きな言葉をいただきました。

○育児休業を取得した感想

【近藤さん】

28日間育休を取得しましたが、24時間、子どもと妻と一緒に過ごし、大変でしたが、もうすぐ6か月になる子どもが今もニコニコしてくれるのは、あの時一緒に過ごした時間があったからかなと感じています。育児では、沐浴やおむつ交換をしたり、ミルクを飲ませたりしました。子どもの寝かしつけにも挑戦しましたが、難しかったです。また、育児と並行して、食器洗いや洗濯などの家事もしっかり行いました。

今回、第一子ということもあり、周囲の子どもが生まれた友人たちにも話を聞きながら育児に取り組みました。

育児を行う中でも特に大変だったことは、寝不足です。子どもが退院して、赤ちゃんが家にいるという今までになかった緊張もあって、1～2週間は夜泣きで眠れませんでした。また、沐浴も怖かったです。生まれる前に沐浴のセミナーには行きましたが、人形ではなく実際の赤ちゃんを沐浴させるのは、最初はとてもあたふたしてしまいました。



(育児休業取得者の近藤さん)

妻から、「日中は仕事で子どもと過ごす時間が少ないし、一緒にお風呂に入ると音の反響もあって子どもが落ち着き、父親の声も認識しやすいことから親密度も増すよ。」という勧めもあり、現在も仕事から帰宅後は子どものお風呂を担当しています。

育休を取得したことで、妻からは、大変喜ばれました。「負担を二人で分け合えて、精神的にもすごく楽だった。二人で育児・家事をしているという実感が持てて、全部一人だったら本当にしんどかったと思う。」と言われました。

子どもが生まれたことで、家族が一人増え、生活が子ども中心へと大きく変わりました。同時に「家族を養っていかなければならない」という責任感も生まれ、これまで以上に仕事も頑張っています。

○職場内でのフォローについて

【樋笠さん】

近藤さんから育休を取得することを早めに聞いていたため、現場にいる従業員同士でカバーし合いました。忙しいところがあれば、応援に回ってもらうなど、柔軟に対応しました。

もともと、普段から従業員が体調不良になったり急に用事ができたりした際も同じように対応しています。近藤さんのお子さんもまだ小さいため、今後体調を崩してしまうこともあるかもしれませんが、その際にもしっかりとカバーできる体制が整っています。

近藤さんは社内で初めての男性育休取得者でしたが、特に驚くこともなく、会社としても積極的に取得を後押ししました。

【近藤さん】

育休の取得に限らず、手当面などに関しても私が初めての利用者になるなど特例を出していただき、大変ありがたかったです。

【樋笠さん】

会社も世の中の流れや風潮にあわせて柔軟に変えていかなければならないと思います。

今回、近藤さんが育休を取得したことで、お互いフォローし合う体制や声掛けなどのコミュニケーションも活発になりました。

今後また育休を取得したいという従業員が出てきた時にも、今回と同じように従業員全体で協力し合いながら、忙しいところにしっかりと人員を配置し、職場が円滑に動く仕組みをさらに整えていきたいです。

〇ワーク・ライフ・バランス推進、働きやすい職場環境づくりのために行政からどのような支援があればいいと思うか

【近藤さん】

手当などの制度がしっかり整っていることは、育休の取得しやすさにもつながってくると思います。

【樋笠さん】

少子化が進行しているため、子どもの数を増やせるような政策をしてほしいです。

【矢野さん】

会社も育休に協力できるのが「当たり前」の世の中になれば、偏見などもなくなりますし、性別に関係なく「当たり前」に育休を取るということが自然になることが必要だと思います。

社会ではまだ「育休を取得しにくい」と感じる雰囲気もありますが、今回近藤さんが「育休を取りたい」と思い取得しているのが素晴らしいし、褒めてあげたいです。

どの企業も人材不足の中で、半年や1年など、いつ育休を取得しても業務が回る体制を整えることは大変なことです、それでも安心して働き続けられる職場をつくるために、企業による一層の取組が必要だと思います。

また、子育てにはどうしてもお金がかかることから、それが理由で結婚や出産

をためらう人が増えてきています。育児のプラスのイメージの例を作っていくことも、少子化の対策になると思います。

（取材を終えての感想）

育休を取得された近藤さんは、お子さんの誕生前に、ご家族と育児や育休についてしっかりと話し合い、沐浴セミナー等にも参加し、準備を進められていたようです。ご家族からの「二人で育児・家事をしているという実感が持て、精神的にも楽だった」という言葉も印象に残っています。

職場においては、従業員が休業しても業務を円滑に進めるための人員配置やフォローし合う体制が整っており、育休期間中もスムーズに対応できたようです。また、育休だけでなく、手当面での補助や職場での温かい声掛けなども育休の取りやすさや働きやすい職場環境につながっていると感じました。

お忙しい中、取材にご協力いただき、ありがとうございました。